川崎ジュニア文化大賞

僕の建築は想像の先に！

下作延小学校　６年生　小林　想葉

世界で活やくする建築家になりたい！それが僕の未来の夢だ。今、僕はその夢に向かって色々なことを学んでいる。

はるか昔の縄文時代、人々はシンプルな竪穴式住居を作って暮らしていたらしい。そして長い時を経て、僕たち現代人は六百メートルを超えるタワーを建てられるほど、建築技術を進歩させた。建築は僕たち人類と一緒に、まるで生き物のように成長してきたと言える。そう考えると建築とは、本当に不思議なものだと思う。

僕が暮らしている川崎市にも、面白い建築物がたくさんある。僕は、建築をながめながら街を歩いて、設計について考えることが大好きだ。これまで見た中で、特に印象に残っている川崎市内の建築物が二つある。

一つ目の建築は、僕が三年生の時の校外学習で「川崎市内めぐり」に行った時に見た、川崎マリエンだ。五十一メートルの高さがあるその建物は、港に面している。建物全体の形は、H型のラグビーゴールのような見た目をしていて、最上階の十階は、三百六十度のガラス張りで出来た見事な展望台になっていた。川崎の工場地帯のずっと向こう側に富士山が見えるほど、見晴らしがとても良かった。僕は、建物の計算された作りと機能に圧倒されたのを覚えている。クラスのみんなは、見晴らしの良さに声を上げて感動していた。僕はおそらく一人だけ、展望台から見える景色よりも、建築の方に魅力を感じていたと思う。

印象に残っている二つ目の建築には、去年の夏に訪れた。僕は家族で初めて海外へ行くために、川崎駅の近くへパスポートを受け取りに行った。パスポートセンターがある建物の中には、室内なのに円形の大きな池のようなものが広がっていておどろいた。僕はとても気になったので、帰宅してからくわしく調べてみることにした。それは「ソリッドスクエア」という名前の建物で、ガラス窓から光が入る吹き抜けの空間は、アトリウムと呼ばれていることが分かった。そこは、まるでアートのように美しい空間だった。僕は建物に入った瞬間、人がいっぱい行き交う外と違って、開放感がある広い中庭みたいだと思った。それは静かで、不思議とリラックスできる空間だった。見渡すと、池の周りに置いてあるベンチに座る色々な世代の人たちが、それぞれに自分のやり方でくつろいでいた。遠くのベンチに座るお母さんらしき人のそばで、小さな子が水面をちょんちょんと指でつつくのが見えた。すると、反対側にいた僕達の所まで、ほのかなさざなみがササーッと伝わって来た。僕はその時、建築には機能だけで

はなくて、心を落ち着かせたり、想像力をふくらませたりする不思議な力もあるんだなあ、と思った。

川崎市以外でも、建築が持つ力に感動した経験がある。昨年の関西万博で、僕は家族と一緒に大屋根リングの上から夕焼けを見た。朝から歩き過ぎてヘトヘトになった足を休めるために、僕達は大屋根リングの上に広がる芝生に座り込んだ。辺りは夕日に包まれて、空はピンク色に染まり、みんなが見上げて笑っていた。

「僕は今、昔の人には想像もできなかった建築物の上に座って、縄文時代から変わらない夕日を見ている！」

そう心の中で叫びながら、とても感動したのを覚えている。

建築は人間に対して、色々なことを可能にしてくれたり、優しく包んでくれたり、アートとして何かを発見させてくれたりもする。今は誰も想像できないような素晴らしい建築を、僕の発想力で形にする夢を、いつか必ず叶えたいと思う。

将来僕は、大好きなロボット制作を建築と組み合わせるつもりだ。そのために今は、川崎市内のロボットプログラミングスクールで学んでいる。ブロックを使って組み立てたロボットを、自分なりにプログラムして動かすのは、とにかく楽しい。昨年は全国大会で入賞をのがすも第四位だった。いつか僕は必ず世界大会へ進みたい。そして海外の大学で、建築とロボット工学について学びたいなと思っているので、今は英語の勉強もしている。いつか必ず、川崎出身の世界的に有名な建築家になるぞ！ぼくは絶対にあきらめない。とんでもなくユニークで、今は誰もが想像できないような建築を形にして見せる！僕の夢は、川崎から世界へと広がっていく。